

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成25年4月6日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3470204243		
法人名	株式会社広の島		
事業所名	グループホーム古の市		
所在地	広島市安佐南区古市3-5-3 (電話)082-877-1413		
自己評価作成日	平成25年3月20日	評価結果市町受理日	

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.hksjks.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3470204243&SCD=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人医療福祉近代化プロジェクト
所在地	広島市安佐北区口田南4-46-9
訪問調査日	平成25年3月30日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点(事業所記入)】

誰にとっても落ち着ける環境をつくり、こころのバリアフリーを目指します。
行事などよりも食事や洗濯などの日常的な生活を支援することや、職員が安心して働ける環境づくりに配慮していきたいと思えます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

国道沿いの利便性の良い場所に、位置するグループホーム古の市は23年11月デイサービス古の市、23年12月高齢者優良賃貸住宅古の市を隣接のビルにオープンされ、定員7名で運営されていたグループホームを、24年8月に同ビルを改造され、2階が事務所、3階、4階が16名の居室、リビングになり、明るく、バリアフリーのスペースは利用者の快適な住環境となり、増改築に伴い、スプリンクラーの設置など安全対策に重点が置かれ、新たな施設となりました。事業者、管理者、職員は利用者が家庭的な環境のもとで、一人ひとりが、身体が不自由な方や高齢者などさまざまな立場の人のことを理解し、思いやりの心をもって接する事の理念を目指し、利用者が安心した生活が過ごせるよう介護支援がされています。

グループホーム古の市(3階)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	理念を念頭におき実践するように努めているが、十分ではない。	理念(誰にとっても落ち着ける環境づくり、心のバリアフリーを目指す)を介護の実践に向けて日々取り組まれている。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	町内会の会員になり、回覧板を持参したり、地域の施設や町内の行事に参加することがあるが、日常的には交流できていない。	町内会に入り地域の行事(夏祭り、秋祭りのしめ縄等の準備)に参加し、散歩の際の挨拶、近隣の商店で買い物をしたり日常的に交流している。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	地域の人々に向けての取り組みが具体的に出来ていない。		
4	3	運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	日々の生活の話題が中心になりやすく、意見をサービスの向上に活かされていない状況ではあるが、積極的に家族の意見を伺い、思いを少しでも共感出来るようにしている。又、消防署にも参加していただき災害時等に関しての情報交換をしている。	運営推進会議は2ヶ月に1回開催される。包括支援センターの職員、利用者、家族、地域の代表、事業者、管理者、消防署の参加を得て開かれ、防災についての指導があり、グループホームの取組み状況を報告し、家族の意見、要望を聞き思いをくみ取り、そこで話し合った意見を活かし取り組まれている。	
5	4	市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	法的な疑問点等がある時は市役所に連絡をして、質問したり、会議の報告等を行っている。運営推進会議へは年1~2回出席がある。	市役所へは運営推進会議の連絡、事務処理でわからない事は市役所介護保険課、生活課に連絡し情報を得られている。	
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束について理解はしているが、全職員への周知徹底は十分ではない。玄関は出来るだけ施錠せず、外出、転倒の危険のある入居者の部屋にはセンサーを設置し対応している。	身体拘束を理解し、拘束にならないよう常にベッ柵の位置を確認し部屋にナースコールも付けられている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	一部の職員が研修に参加しているが、施設内で学ぶ機会はあまりない。研修参加者等から職員に情報伝達して意識統一を図っている。		

グループホーム古の市(3階)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している。	一部の職員は理解しているが全員は出来ていない。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入居時に出来るだけ理解納得を得られるよう努めている。		
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	管理者や職員に直接表せる機会を設けたり、家族アンケートをとり、運営推進会議の中で報告する機会を持っている。	運営推進会議で、家族同士の話し合いをされ、そこでの意見を管理者、職員は運営に反映される。増設の際には家族アンケートをとり家族の意見を反映された。	
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	申し送り時などに職員の意見、提案などを出し、反映に努めている。職員も思ったことを素直に言える環境づくりを目指している。	日々の業務の中や申し送りの時、職員の意見、提案を出し合い反映にされる。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	職員勤務状況を把握し、職員の家庭状況等に合わせた労働時間を配慮したり、各自がやりがいをもち働きやすい環境作りを目指しているが十分ではない。		
13		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	職員の力量にあわせて、必要であれば施設内でトレーニングを行ったり、職員同士でフォローしあえる環境を作っているが、研修に参加する機会は少なく、十分ではない。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	地域の同業者と交流する機会をまだもてていない。		

グループホーム古の市(3階)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。</p>	<p>利用前に見学していただいたり、訪問するなど、信頼関係をつくる努力をしている。</p>		
16		<p>初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。</p>	<p>利用者の状況や家族の思いを聴いて信頼関係が作れるように努力している。費用や通院等についてなど、具体的な情報提供を十分におこなうようにしている。</p>		
17		<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。</p>	<p>家族や担当ケアマネージャー、利用していたサービス機関から、情報収集を十分に行い、入所前からホームの職員に情報提供をし、必要なケアや環境の検討を行い、受け入れ態勢を整えるようにしている。そして入所時の利用者の状況のみで、ケアを再検討し、対応している。</p>		
18		<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。</p>	<p>利用者をお客様として捉えず、家族の一員としてお付き合い出来る環境作りを志している。時には料理を教えて頂いたり、会話の中で人生の先輩としての考えを学んだりし、お互いに支えあえる関係が築けるように努力をしている。</p>		
19		<p>本人と共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。</p>	<p>家族の状況、環境に配慮しながら一緒に支えていく関係を築けるよう努めている。</p>		
20	8	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。</p>	<p>希望時に電話や面会を受け入れる程度で、積極的な支援はしていない。</p>	<p>知人等の面会があり、馴染みの関係を支援される。遠方の方への連絡、電話、古の市便りなどで支援に努められている。</p>	
21		<p>利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。</p>	<p>互いの関係に配慮して孤立せずに関わりあえるよう支援に努めている。</p>		
22		<p>関係を断ち切らない取組み</p> <p>サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。</p>	<p>必要に応じて継続的に関わっている。</p>		

グループホーム古の市(3階)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	思いやりや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の関わりの中で思いや意向の把握に努めているが、把握した事に対して十分に対応できていない。	日常生活の会話の中で思いをくみ取り、利用者の思いを確認するよう把握に努めている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	本人、家族、利用していたサービス機関からの情報を収集し把握に努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	一日の過ごし方心身状態などを総合的に把握するよう努めている。		
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	職員の話し合いはしているが、家族や関係者から十分に意見を反映できていない。家族から介護計画についての具体的な意見が出にくく、意見の求め方に工夫が必要である。現在、『家族の意向』欄を空白にした介護計画を家族に送り、希望を伺うようになっているが、十分な回答は得られていない。現状をみて随時見直しをしているが、介護計画を十分に活用できていない。	面会時に家族の意見、要望を聞き、関係者、職員は毎日の記録をもとに介護計画を作成されるが家族の希望が少なくお任せの場合もある。状況変化があれば即見直しがされる。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	毎日日々の状況を個別記録に記入し、また医師や看護師からの指示や援助が変更した場合、その他注意点などはノートにも記入し、職員全員が情報を共有し、その都度話し合いをしながら援助をするようにしているが、十分ではない。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	通院介助や地域の商店への外出を行っている。又、医療連携体制をとり、介護と医療との連携をより円滑に出来るように努めている。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	消防署には運営会議や消防訓練で助言指導して頂いたりしているが、その他は協力できるような体制が整っていない。		
30	11	かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	看護職員による健康観察は常時かかりつけ医に報告され、状態に合わせて薬が処方されている。定期健診や、異常時には時間外でも早期に対応できるように電話で報告指示をもらったり、必要に応じて往診や通院介助をしている。	ほとんどの方が、かかりつけ医の月2回の往診で必要に応じた診察を受け早期対応をしている。また通院介助がされて入院回避につながり、緊急事態にも対応してもらえる連携ができている。	

グループホーム古の市(3階)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	看護職員も介護職員と同様の仕事をしており、互いに情報を共有し、看護職員は利用者が適切な受診や看護を受けられるように努めている。又、訪問看護、医師とも連携を図り、随時適切な医療が受けられるように対応している。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	主治医から協力医療機関と連携を図っていただき、スムーズな対応が出来るように努めている。又、入院先の病院にも定期的に訪問し、病院関係者との情報交換にも努めている。現在では、1～2週間ごとの本人様の状況を文書でやりとりを行なっている。		
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	本人、家族の希望に沿えるよう、協力医療機関と連携をとりながら、支援に取り組んでいる。	重度化された場合における看取り指針を入居時に伝え、その時期には家族の意向をふまえ医師、看護師の指示のもと、施設でできる体制で看取り支援がされる。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	急変や事故発生時の対応について、口頭で説明や話し合いはしているが、定期に訓練はできておらず、一部の職員しか実践力が身につけていない。		
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	避難経路、避難場所、消火器の使用方法是定期的に訓練を行い、訓練に参加できなかった職員にも資料を配布して周知徹底を心がけているが、地震水害時の訓練や地域との協力体制は十分ではない。	年2回(夜間想定、日勤体制)避難経路、避難場所、消火器の使用方法など訓練をされる。災害時の協力を同ビルの3世帯、隣接のビルの2世帯に協力をしてもらえる体制をとられている。	
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねることがないように注意して対応し、人格の尊重を心がけているが、配慮が足りない事も多い。	プライバシーに配慮した取りくみがされ、利用者一人ひとりの気持ちに添えるよう言葉使いに気をつけて対応される。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	利用者が自己決定できるようにゆっくと一人ひとりのペースに合わせ支援するよう努めている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	一人ひとりのペースを大切に、希望に沿えるよう努めているが、十分に出来ていない。		

グループホーム古の市(3階)

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	美容師に訪問してもらい、メイクなど行っている。また本人の望む場合は個別に対応している。			
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	入居者の心身の状態をみながら、出来るだけ入居者と一緒に行う心がけているが、入居者の重度化に伴い、一緒に行う機会が少なくなっている。	食事作りを職員と一緒にできる方が少なくなっているが、できる方に手伝ってもらい行事食(巻き寿司)などを作られる。トロミ食、ミキサー食、刻み食の提供もされている。		
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	一人ひとりの食事量、水分量、排泄量を把握し、少ない方には本人の摂取しやすいものに変えるなどし、確保できるよう支援している。			
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	本人の生活リズムに合わせ、全員が毎食後ではないが状態に応じて対応している。			
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	ひとり一人の排泄パターンや習慣に合わせて、トイレ誘導をしたり、排泄介助を行っている。重度化が進んでいるが、定期的に職員と話し合い、排せつ状況の改善等を取組み、支援しているが、十分できていない。	排泄パターンを把握し声掛で昼間のトイレ誘導で支援される。今年に入りオムツ使用からポータブルに変えられた方があり、できるだけトイレ使用できる支援がされる。		
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	便秘傾向の方には、水分や乳製品を積極的にとってもらったりして予防に努めている。			
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	週2回と希望日に入浴又はシャワー浴をして頂いている。拒否される事がある方や、身体状態の不安定な方はタイミングと体調に合わせて、時間や日をかえて、支援している。日中のみしか対応できていない。	いつでも希望されれば入浴できる支援がされているが拒否される方には職員はタイミングをみて支援される。		
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	入居者一人ひとりの睡眠パターンを把握し、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。			
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬の内容を理解し、服薬確認、症状に変化がないか注意を払っている。又、誤薬防止の為、内服の前に必ず薬の袋に書いてある名前と本人を確認するよう努力している。			

グループホーム古の市(3階)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	料理や編み物、歌など、一人ひとりの生活歴や好みに合わせて支援しよう心がけているが、入居者が重度化してきており、十分に出来ていない。		
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	買い物や行事など、外出支援をしているが、その日の希望にそってではできておらず、家族や地域の人との協力体制はできていない。	日常は散歩や近所へ買い物に出かけられる。初詣や広島城での菊花展にも出かけられる。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	希望者には職員が管理しているが、本人の能力に応じた支援はできていない。		
		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	現在は手紙のやりとりはされていないが、希望時に電話はして頂いている。		
52	19	居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居者にとって不快や混乱をまねくような事がないよう配慮をし、出来るだけ居心地よく過ごしてもらえるように家庭的な空間づくりを心がけているが、季節感行事のものを時々飾る程度で工夫ができていない。	リビングは明るく壁面には写真や利用者の作品が掲示され、ソファやテーブルで自由に過ごされている場でした。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	リビングのソファやテーブルで思い思いに過ごされるが、静かに独りきりになれるスペースがない。		
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	自宅で使われてたものを持ってきてもらい、居心地よく過ごせる空間づくりを心がけているが、居室の広さに制約があるため、断る場合もある。	自宅で使われていた仏壇や物品が持ち込まれ、家族の写真など飾られている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	混乱や失敗を防いで、入居者の動きを制限せず、できることを活かしていけるよう、入居者の心身の状態をよく観察して対応しよう心がけている。要所へ滑り止めや手すり等を設置したりと、安全に生活してもらえるように工夫しているが、設備上の問題もあり、限度があるので、十分ではない。		

グループホーム古の市(3階)

アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。		ほぼ全ての利用者の 利用者の3分の2くらいの 利用者の3分の1くらいの ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある		毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている		ほぼ全ての利用者が 利用者の3分の2くらいが 利用者の3分の1くらいが ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている		ほぼ全ての利用者が 利用者の3分の2くらいが 利用者の3分の1くらいが ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている		ほぼ全ての利用者が 利用者の3分の2くらいが 利用者の3分の1くらいが ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている		ほぼ全ての利用者が 利用者の3分の2くらいが 利用者の3分の1くらいが ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている		ほぼ全ての利用者が 利用者の3分の2くらいが 利用者の3分の1くらいが ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている		ほぼ全ての家族と 家族の3分の2くらいと 家族の3分の1くらいと ほとんどできていない

グループホーム古の市(3階)

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている		大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
66	職員は、生き活きと働けている		ほぼ全ての職員が 職員の3分の2くらいが 職員の3分の1くらいが ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		ほぼ全ての利用者が 利用者の3分の2くらいが 利用者の3分の1くらいが ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		ほぼ全ての家族等が 家族等の3分の2くらいが 家族等の3分の1くらいが ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホーム 古の市
作成日 平成 25 年 3月 20 日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	13	職員の研修を受ける機会が確保できていない。	法人内外の研修を受け、モチベーションを向上させていきたい。	外部研修への参加 ホーム内の勉強会の実施	1年
2	49	利用者が重度化してきており、希望に沿った外出ができていない。	行事だけでなく、日々の生活の中で短時間でも外に出る機会を作り、気分転換をして頂く。	天候や体調の良い日は近くの公園に散歩に行ったりと短時間でも外の空気を吸って太陽の光を浴びて頂く。	1年
3	36	利用者1人1人への言葉遣いに配慮にかける所がある。	利用者1人1人への言葉遣いに配慮する。	今まで、慣れ親しんできた呼び名や言葉遣いで安心して生活していただけるように配慮する。	1年
4	23	1人1人の思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めたい。	今、何がしたい？何を望んでいるのか？を常に考えて利用者と接されるようになりたい。	コミュニケーションをしっかりととり、取れない方は仕草等をしっかりと観察して、本人の思いを理解していく。	1年
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。